

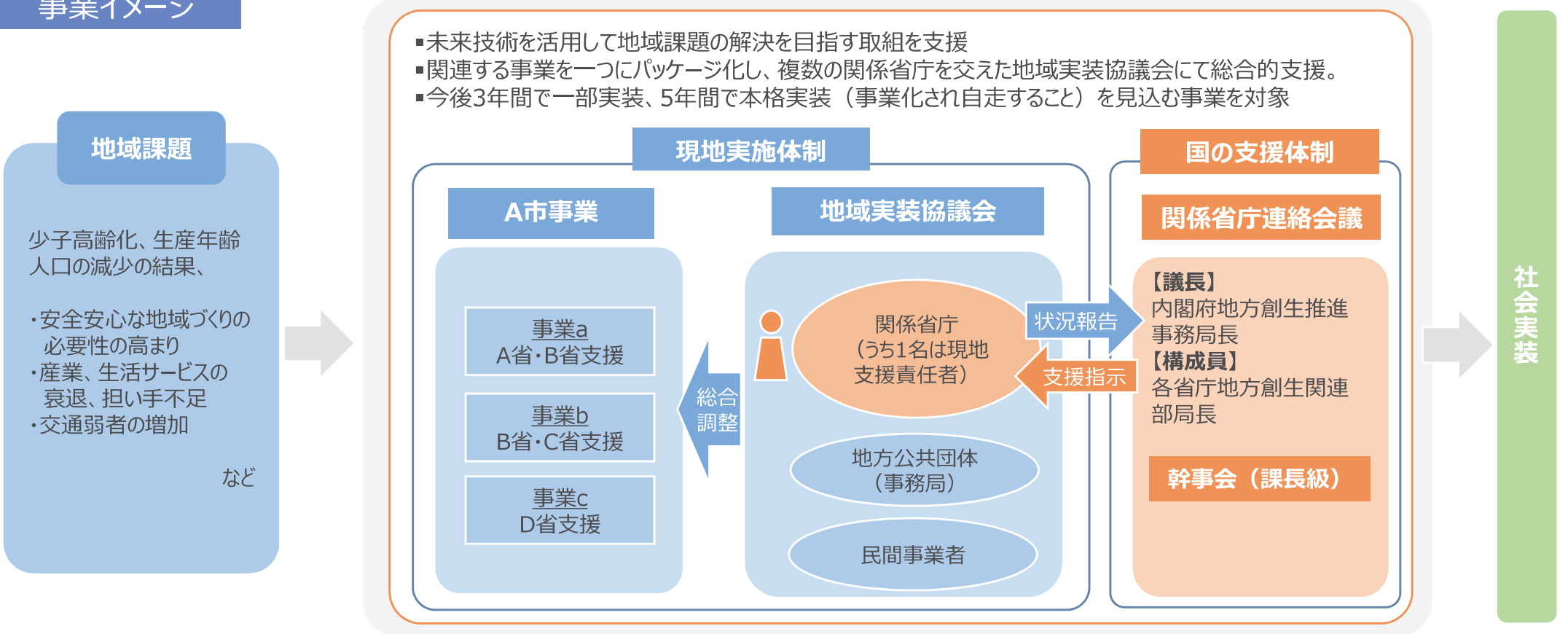
未来技術社会実装事業について

令和3年12月14日
内閣府地方創生推進事務局

概 要

- AI、IoTや自動運転、ドローン等の未来技術を活用した新しい地方創生を目指し、地方創生の観点から、革新的で先導性と横展開可能性等に優れた提案について、社会実装に向けた関連事業の現地支援体制（地域実装協議会）を構築し、関係府省庁による総合的な支援を行う。
- 未来技術を活用した地方創生に関する提案を地方公共団体から募集し、H30年度に14事業、R1年度に8事業、R2年度に12事業、R3年度に9事業を選定、現在38事業に対して支援を実施中。（H30年度選定の5事業はR2年度末をもって支援を終了。）

事業イメージ



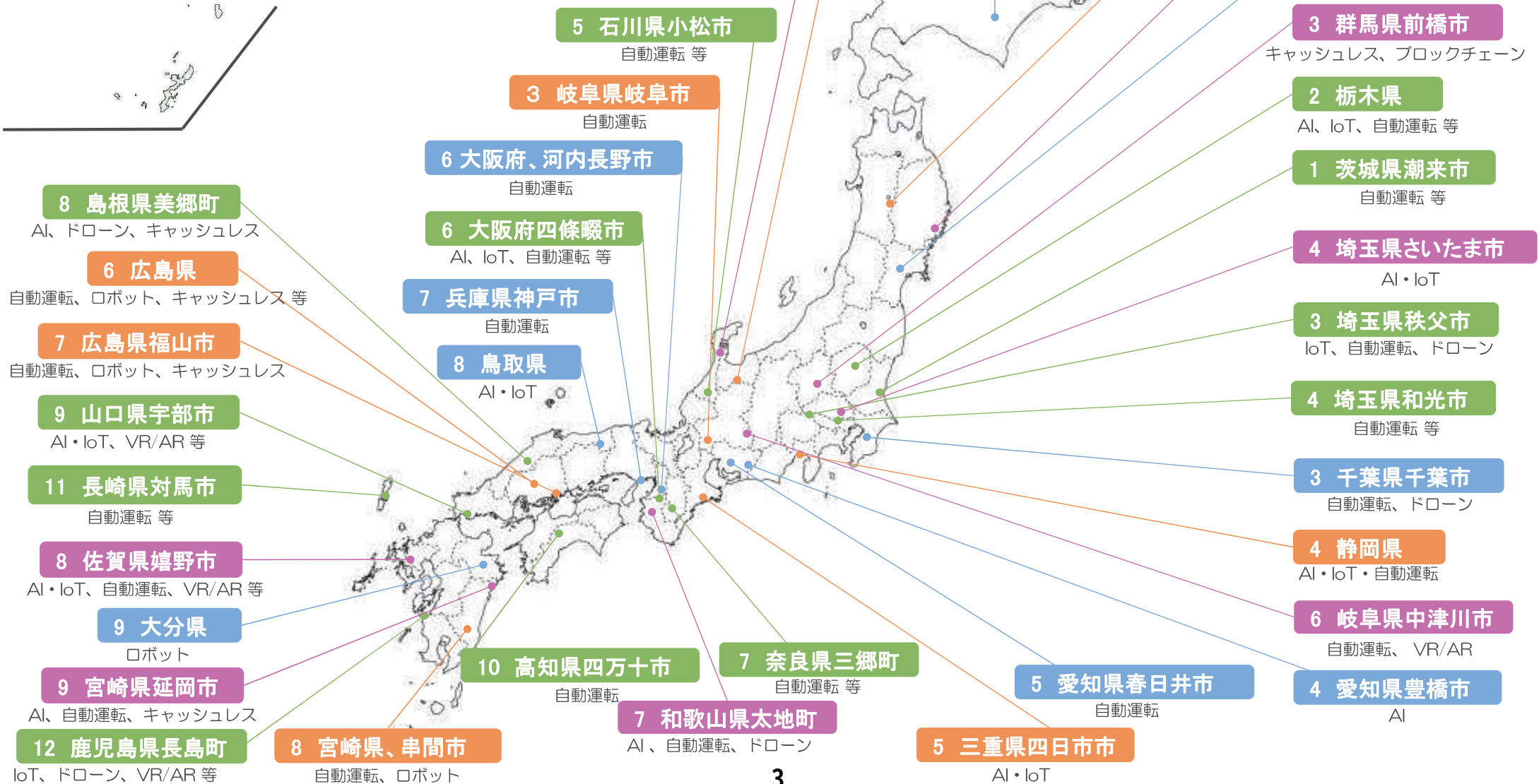
未来技術社会実装事業 一覧

資料2

R3.8.24時点

- :平成30年度選定
- :令和元年度選定
- :令和2年度選定
- :令和3年度選定

※地方公共団体名下面是主な活用技術



事業概要

提案タイトル	超高速交通網との接続にむけた自動運転ネットワークの導入と地域拠点整備による新たな人の流れ創出事業
提案者	活用技術
岐阜県中津川市	自動運転、VR/AR

背景・課題

目指す
将来像

・自動運転技術と新たな拠点の創出により、「リニア等広域交通の整備効果を市内全域へ波及」と「多拠点ネットワークによる集約型都市構造」の実現。

解決すべき
課題

①人口減少と高齢化の進展する中山間地域での持続的発展、②各拠点の魅力向上に向けた取り組み
③交通インフラの整備効果の最大化、

実装を目指す主な事業内容

○事業：自動運転技術の導入・運営

活用技術

事業概要

自動運転

・人だけでなく農産物の出荷や生活品の配達など貨物も合わせた効率的な運行。
・既存公共交通との連携、代替としての活用検討。

○事業：自動運転予約アプリの開発

活用技術

事業概要

VR/AR

・自動運転サービスを予約するだけでなく、収集・可視化した地域の歴史や資源等をアプリ上で表示し、訪問者等を集落内へ誘導。

○事業：拠点の創出・運営

活用技術

事業概要

VR/AR

・オンライン拠点として、地域史料、地形や拠点候補地の可視化（一部3Dモデル化）により、情報発信。
・古民家リノベーションにより拠点を創出し、住民、訪問者の双方を誘導。一部は、シェアオフィス等へ活用。



図 モデルとする付知町地区での技術実装イメージ図

中津川市未来技術地域実装協議会規約

(名称)

第1条 本会は、中津川市未来技術地域実装協議会（以下「協議会」という。）と称する。

(目的)

第2条 協議会は、内閣府において採択された「超高速交通網との接続にむけた自動運転ネットワークの導入と地域拠点整備による新たな人の流れ創出事業」に関し、社会実装に向けて、多様な観点から必要な協議を行うことを目的とする。

(協議事項)

第3条 協議会は、次に掲げる事項について協議を行う。

- (1) 中津川市における自動運転技術の導入及びその技術を用いた運行の運営
- (2) 地域資源の発信等を行う拠点の設置及び運営
- (3) その他前条の目的を達成するために必要な事項

(組織)

第4条 協議会は、別表の委員をもって組織する。

2 委員の追加又は変更は、協議会の承認を得るものとする。

3 委員の任期は、令和8年3月31日までの間とする。

(座長)

第5条 協議会には座長を置き、座長は有識者から選出するものとする。

2 座長は、会務を総理する。

3 座長に事故等があるときは、座長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 会議は、座長が招集する。

2 会議の進行は、座長が務める。

3 会議は、委員の過半数が出席しなければ、開くことができない。

4 やむを得ない事情により会議に出席できない委員は、代理者を出席させることができる。ただし、有識者の委員においては、この限りでない。

5 座長は、必要があると認めたときは、委員以外の者に対し協議会への出席及び意見を求めることができる。

6 委員は、会議に説明のための補助者を同席させることができる。

7 前各項に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、座長が定める。

(事務局)

第7条 協議会の運営に関する事務を行わせるため、事務局を中津川市次世代交通研究室に置くものとする。

(その他)

第8条 本規約に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、座長が協議会に諮って定める。ただし、軽微な事項についてはこの限りでない。

附 則

この規約は、令和4年1月25日より施行する

No		2106									
提案者		岐阜県中津川市									
提案タイトル		超高速交通網との接続にむけた自動運転ネットワークの導入と地域拠点整備による新たな人の流れ創出事業									
実装内容		実装内容1：自動運転技術の導入・運営 実装内容2：自動運転予約アプリの開発 実装内容3：拠点の創出・運営									
現地支援責任者		中部地方整備局 多治見砂防国道事務所 事務所長 加藤 仁志									
2022年度に実装を目指す主な技術/事業		自動運転、VR/AR									
本格実装に向けたスケジュール	2021年度の主な取組	【地域拠点の設計】 ・自動運転ルートの立ち寄りスポットとなる、地区内の古民家等を改修した地域拠点の設計に向けた検討を行う。本年度は地区内の拠点等の交通施設（バス停）に、地元木材加工業者と連携して、ベンチ等を作成・設置。 【実証実験に向けた準備】 ・地域住民と訪問者双方の目的に適したルートの検討 ・予約システム(アプリ)の構築 ・地域団体等へ実証実験を含む今後の取り組みに関する説明会を実施。 【実証実験の実施】 ・12月上旬より1週間、予約システムを使い自動車(ハイエース車両)を地区内走行させ、移動・輸送のニーズを把握する ・住民アンケート及びプローブパーソン調査の実施による潜在需要の把握。									
	2022年度の主な取組（予定）	【地域拠点の整備】 ・地区内の地域拠点のリノベーションに向けた設計、一部実施。 【実証実験の実施】 ・オンライン拠点としての整備（WEB活用した情報発信）									
	2023年度の主な取組（予定）	【地域拠点の運用】 ・地区内の地域拠点の実運用に向けた課題を検証 ・リノベーション後の実際の運用を模擬したプレサービスを実施 【実証実験の実施】 ・予約システム(アプリ)／自動走行については、東大との共同研究の取り組みを活かし継続して実施									
		2021年		2022年				2023年			
		10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3
実装内容		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
実装内容	住民説明会	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	付知地区における実証実験	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
実装内容	効果検証	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	住民アンケート及びPP調査	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		東大との共同研究（計画策定・ニーズ検証）									

自動運転技術の活用を見据えた社会実験の報告

資料6

<目次>

1. 実験の目的
2. 実験概要
3. 実施状況
4. 実施結果
5. 検証に向けた調査
6. 【別紙】バス停の製作について

▼ 社会実験のロゴ



1. 実験の目的

資料6

付知 bin

下図の実現はまだ将来

■ 自動運転社会実現へのシナリオ

SAE※運転自動化
レベル

物流/移動サービスの実用化

究極の自動運転社会

物流/移動サービス

- 過疎化対策
 - ドライバー不足対策
 - 移動の自由
- 社会的課題解消

(工場無人搬送車)

(ゴルフカート)

オーナー・カー

高速道路から
一般道への拡張

- 交通事故低減
 - 交通渋滞削減
 - クルマの価値向上
- 国際連携
経済的発展

(地域、道路、環境、交通状況、速度、ドライバーなど)

制限付き

制限なし

8

※SAE (Society of Automotive Engineers) : 米国の標準化団体

出典：内閣府資料 (SIP第2期自動運転(システムとサービスの拡張))

現在は自動運転車両が走れる箇所は制限があり、
街中どこでも走行するのは長期的な将来。

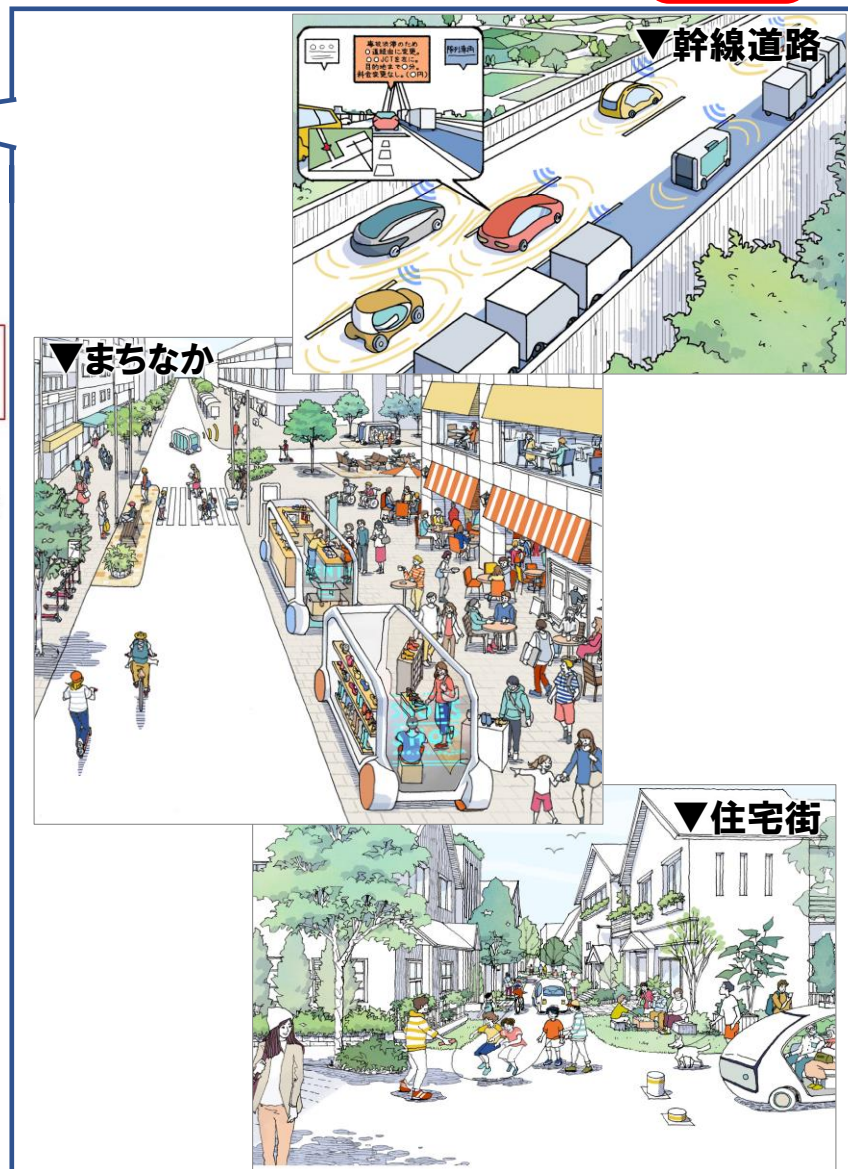
■ 実験の目的

実験車両を自由な使い方をしてもらいながら、
顕在化していない移動・輸送のニーズを把握。

結果を踏まえ、

自動運転ネットワークと優先的に導入すべき区間を検討、
並行して、拠点づくり・アプリ等を検討

<自動運転技術が活用された将来道路ビジョン(2040年)>



出典：社会資本整備審議会道路分科会基本政策部会 提言
道路政策ビジョン「2040年、道路の景色が変わる」より抜粋

2. 実験概要

資料6

■実験の概要

項目	内容
実験期間	12月9日（木）～15日（水）1週間
運行時間	6時～18時 計12時間
利用車両	ハイエース (10人乗り) 1台 ※自動運転ではない 
運行エリア	付知町地区内内
運行方法	■時間帯を決めて多様な使い方 ①予約に応じてルートを定めず運行 ⇒タクシーのような利用方法 ②決められたバス停、ルートを巡回 ⇒循環バスのような利用方法 ③商品の輸送 ⇒移動販売車のような利用方法
利用者登録	不要
利用料	無料
予約	一部必要 →予約用のWEBアプリを開発

■運行エリア

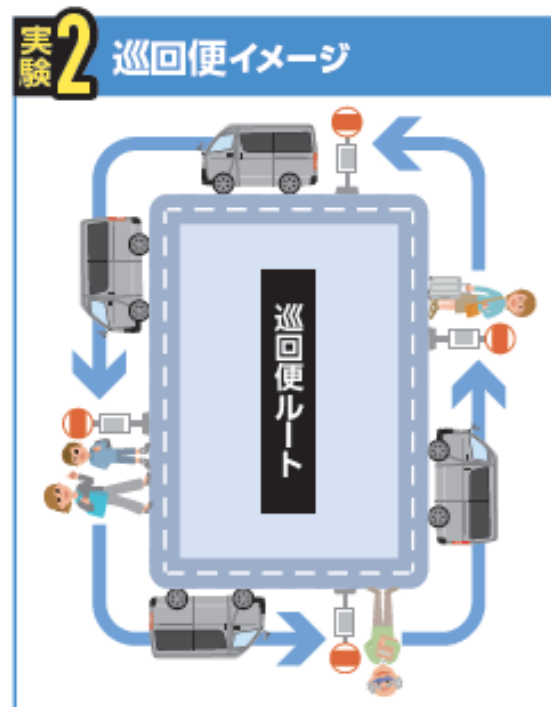


2. 実験概要 3つの実験

資料6

付知 bin
Tsukechi Bin

- ・ 時間帯と曜日で異なる、3種類の方法で実験を行った。

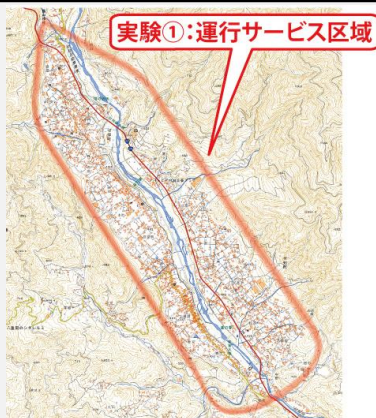


2. 実験概要 実験1：地区内 人・物どこでも輸送

資料6

■実験1：地区内 人・物どこでも輸送 実験の概要

項目	内容
方法	・ 付知町地区内を、タクシーのように予約に応じて車両を走らせる。 ・ 人だけでなく、荷物のみの輸送も実施。
実験日	実験期間中 毎日
運行時間	① 6：00～ 8：00 ② 11：00～13：00 ③ 16：00～18：00 〈②は10日・11日・15日運休〉
予約	必要 ・ WEBアプリ または 電話窓口（まちづくり協議会） ・ 運行時間内で、20分毎の予約枠を用意、予約の成立は先着順。
運行条件	・ 運行サービス区域内に起終点があるもの。 ・ 乗車人数は5名まで ・ 荷物は、段ボール3箱まで



■ご利用の流れ

1 予約

WEBアプリ、電話窓口を用いて、当日、または翌日の便を予約可能。

予約時に必要内容

- ①予約時間（毎時00分、20分、40分）
- ②お名前 ③電話番号 ④出発地
- ⑤目的地 ⑥人が乗車するか、荷物のみか

2 車両待ち

予約時間から10分以内を目途に出発地に車両が向かう。

3 乗車

ご予約名を確認

4 降車

2. 実験概要 実験1：地区内 人・物どこでも輸送

資料6

< 実装した予約用WEBアプリ >

▼トップ画面

人・物どこでも輸送の予約

予約可能な時間(本日と明日の便を予約できます)

選択してください ▼

氏名

付知 太郎

電話番号(ハイフンなし)

固定電話の場合は、市外局番からご入力ください

出発地

選択してください ▼

目的地

選択してください ▼

※出発地・目的地は運行サービス区域内としてください

参考マップを開く

人・物の輸送

選択してください ▼

※乗車は最大5名まで・荷物は段ボール3箱まで

登録する

実験期間(12月9日～15日)以外の予約は無効です

▼出発地・到着地の選択

実験用に設置した22箇所のバス停からの選択するほか
地図上での選択、住所等の自由入力が可能とした

出発地

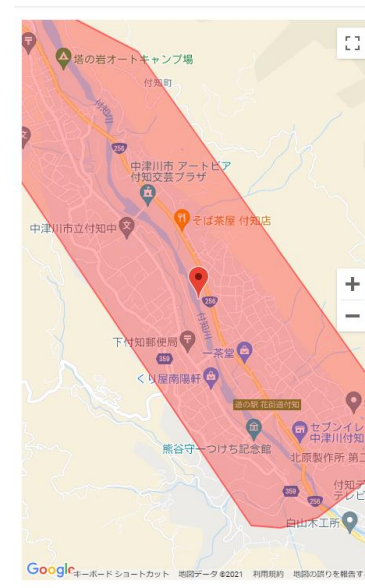
自由入力(住所・ランドマーク) ▼

選択してください

自由入力(住所・ランドマーク)

地図から入力(緯度・経度)

- 1 花街道付知
- 2 安楽満
- 3 子安神社
- 4 広野
- 5 付知総合事務所
- 6 新田
- 7 藤山
- 8 ヤマニシ
- 9 辻堂
- 10 おんぼいの湯
- 11 桜屋町
- 12 秋津
- 13 回生堂医院
- 14 さのや
- 15 上見屋
- 16 ヤマニシ
- 17 若宮神社



この場所を目的地として設定する



SMSで予約確認とキャンセルができるURLの送付

2. 実験概要 実験2：巡回便

資料6

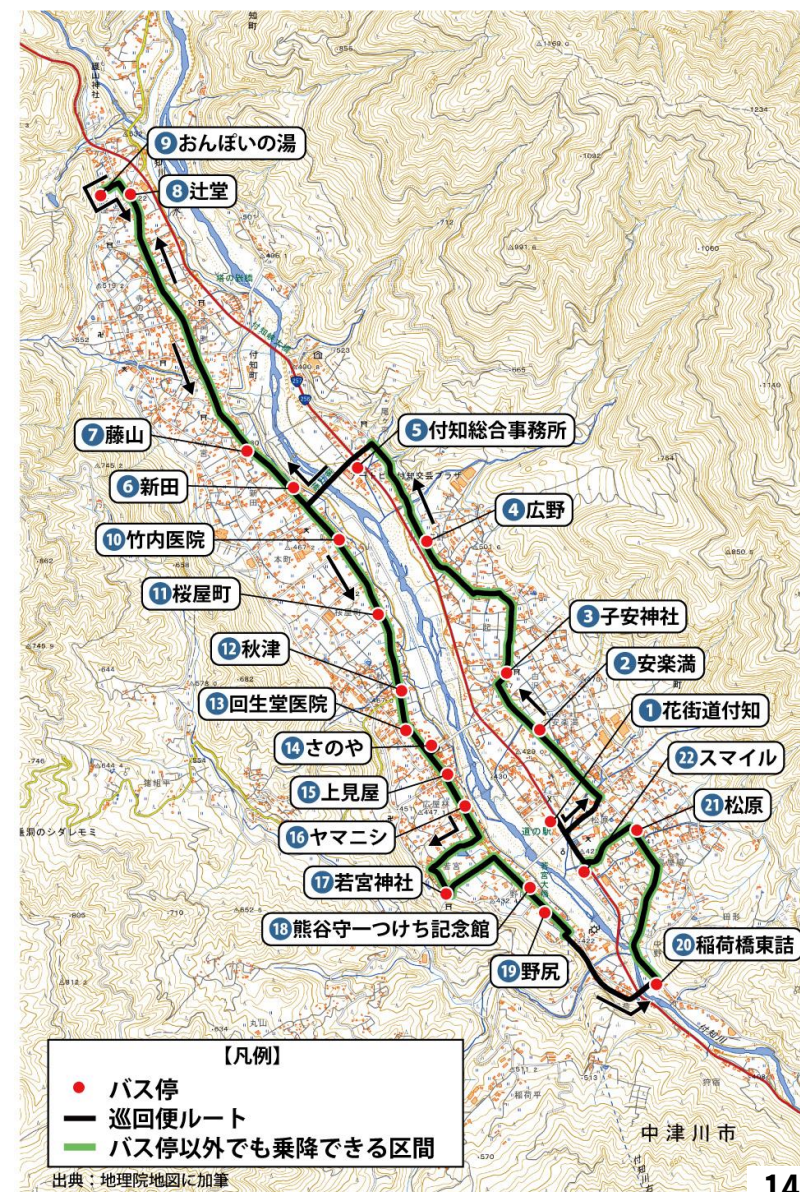
■実験2：巡回便 実験概要

項目	内容
方法	- 地区内を定時、定路線で運行。 - バス停以外でも、自由に乗降できる区間を設定。
実験日	実験期間中 毎日
運行時間	午前 8:30~10:30 午後 13:30~15:00 それぞれ2便運行
予約	不要
バス停	今回実験用に22箇所を設置 

▼時刻表

バス停名	午前		午後	
	1便	2便	1便	2便
1 花街道付知	8:30	9:30	13:30	14:30
2 安楽満	8:32	9:32	13:32	14:32
3 子安神社	8:33	9:33	13:33	14:33
4 広野	8:35	9:35	13:35	14:35
5 付知総合事務所	8:39	9:39	13:39	14:39
6 新田	8:40	9:40	13:40	14:40
7 藤山	8:41	9:41	13:41	14:41
8 辻堂	8:44	9:44	13:44	14:44
9 おんぼいの湯	8:48	9:48	13:48	14:48
7 藤山	8:52	9:52	13:52	14:52
6 新田	8:53	9:53	13:53	14:53
10 竹内医院	8:54	9:54	13:54	14:54
11 桜屋町	8:55	9:55	13:55	14:55
12 秋津	8:56	9:56	13:56	14:56
13 回生堂医院	8:57	9:57	13:57	14:57
14 さのや	8:58	9:58	13:58	14:58
15 上見屋	8:59	9:59	13:59	14:59
16 ヤマニシ	9:00	10:00	14:00	15:00
17 若宮神社	9:02	10:02	14:02	15:02
18 熊谷守一つけち記念館	9:04	10:04	14:04	15:04
19 野尻	9:05	10:05	14:05	15:05
20 稲荷橋東詰	9:07	10:07	14:07	15:07
21 松原	9:09	10:09	14:09	15:09
22 スマイル	9:10	10:10	14:10	15:10
1 花街道付知	9:11	10:11	14:11	15:11

▼路線図



2. 実験概要 実験3：移動販売

資料6

付知 bin
Tsukechi Bin

■実験3：移動販売 実験概要

項目	内容
方法	地元の商店に協力いただき、お弁当等を販売。
実験日	・10日（金） ・11日（土） ・15日（水）
販売場所	・付知総合事務所 ・上見屋 ・道の駅 花街道付知 ※付知総合事務所は11日（土）の販売なし
協力商店	・上見屋 ・おやつと刺繍03 ・つけち農産加工グループ ・やまにし

▼移動販売 商品ラインナップ

上見屋



・弁当／700円

おやつと刺繍03



・レモンケーキ／250円
 ・ショートブレッド／230円
 ・三日月クッキー／230円

つけち農産加工グループ



・梅干し／650円
 ・お菓子各種／260円
 ・かぶの漬物／260円
 ・豆腐／230円

やまにし



・みそ／400円
 ・いなり寿司＋巻き寿司／400円
 ・醤油／400円
 ・いなり寿司／300円

3. 実施状況 実験1：地区内 人・物どこでも輸送

資料6

付知 bin
Tsukeychi Bin

▼学童の送り迎えで利用



▼道の駅への野菜の出荷で利用



▼業務用の荷物（チラシ）を配達



<感想>

学童の送り迎え



夕方の忙しい時間に、子供を自宅まで送ってもらえれば、空いた時間を家事に使えます。

業務用の荷物（チラシ）を配達



1人で店番をしているので、ちょっとしたものを持っていくのも、1度店を閉める必要があります。荷物を届けてもらえると助かります。

3. 実施状況 実験2：巡回便

資料6

付知 bin
Tsukechi Bin

▼買い物で利用



<感想>



移動は友人や親戚にお願いしているので、ちょっと何かほしいときに、すぐには出掛けられません。このような移動ができれば便利です。

▼巡回便の運行中に、移動販売の商品を受け取り。 貨客混載で運行しました！



3. 実施状況 実験3：移動販売

資料6

付知 bin
Tsukechi Bin

▼付知総合事務所



▼上見屋



▼道の駅 花街道つけち



＜感想＞



商品を近くまで売りに来てもらうと、
温かくおいしいものが食べられて、
うれしいですね。

4. 実施結果

資料6

- ・ 社会実験 1 週間での利用者数等は以下のとおり。

運んだ人の数

89 名

運んだ荷物の数

16 セット

商品購入者

65 名

販売した商品数

271 個

・ 昼の時間帯の利用率が約 4 割と最も高い。

▼実験 1：地区内人・物どこでも輸送 予約状況

時間帯		9（木）	10（金）	11（土）	12（日）	13（月）	14（火）	15（水）	予約枠	予約数	予約率
朝	6:00								42	11	26%
	6:20	<特別予約>農家5軒の野菜を集荷し、道の駅へ出荷									
	6:40										
	7:00										
	7:20										
	7:40										
昼	11:00								24	10	42%
	11:20										
	11:40										
	12:00										
	12:20										
	12:40										
夕	16:00								42	11	26%
	16:20										
	16:40										
	17:00										
	17:20										
	17:40										
予約枠		18	12	12	18	18	18	12	108		
予約数		8	6	4	3	6	3	2	32		
予約率		44%	50%	33%	17%	33%	17%	17%	30%		

【凡例】

< 予約枠 >

利用なし

人の輸送

物のみ輸送

予約不可

20

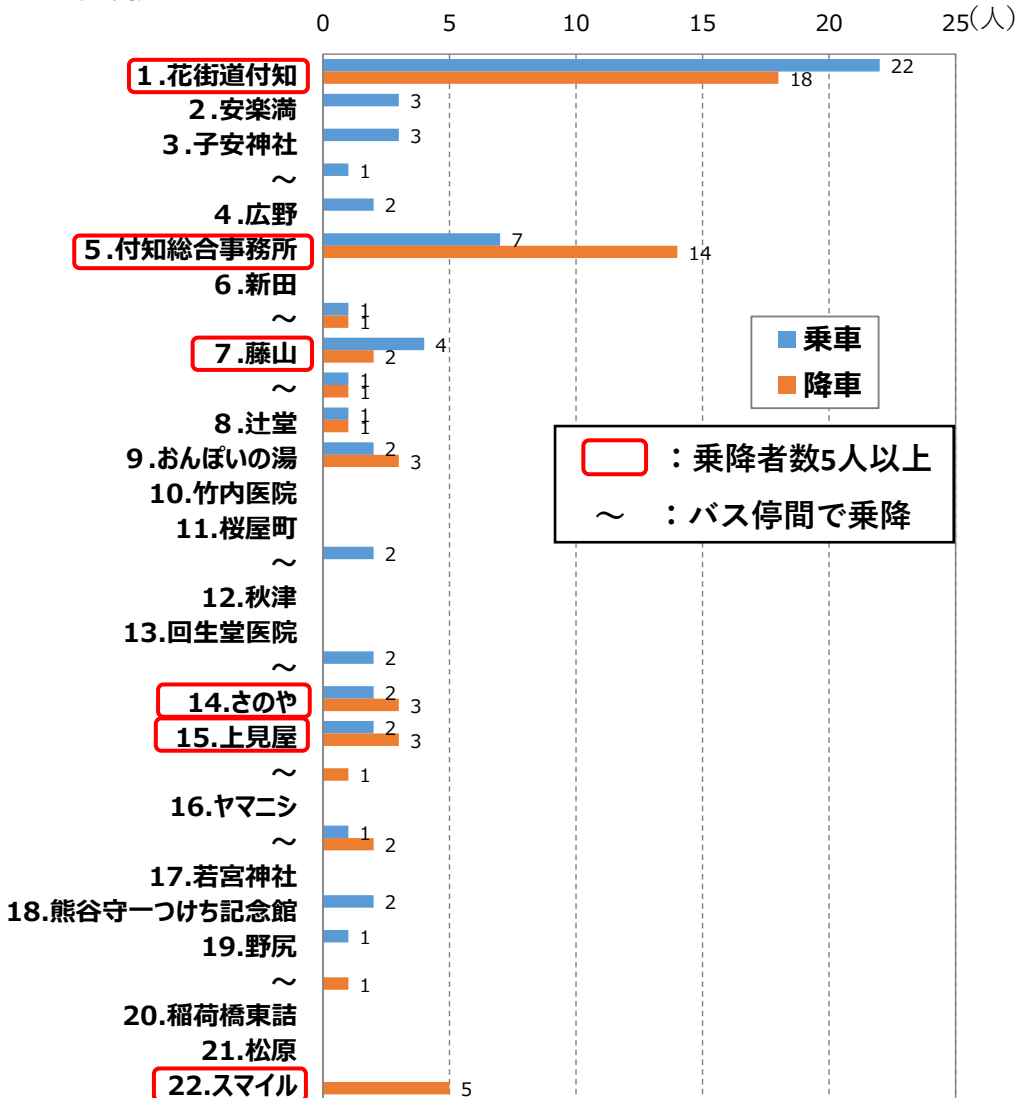
4. 実施結果 実験2：巡回便

資料6

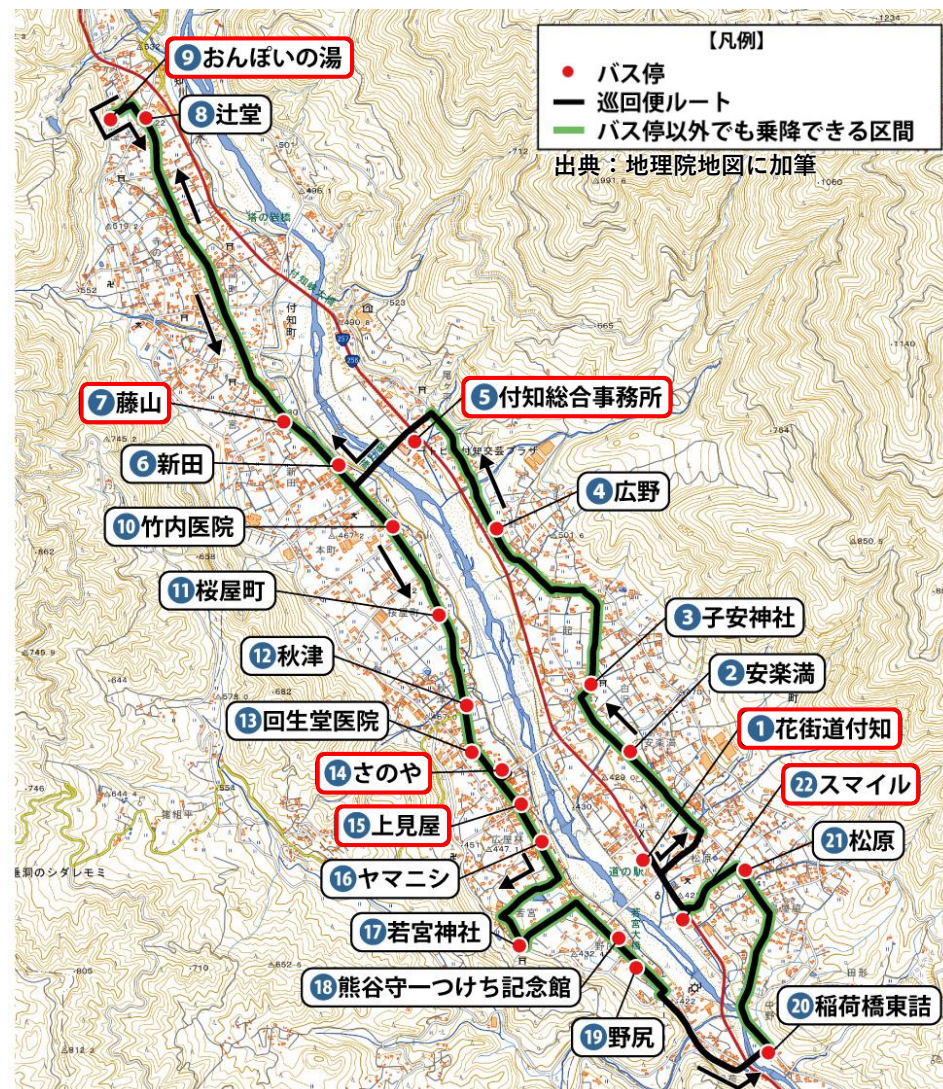
付知 bin
Tsukechi Bin

- 「1.道の駅 花街道付知」と「5.付知総合事務所」に利用が集中。
- スーパーの「14.さのや」、「22.スマイル」の他、「7.藤山」、「15.上見屋」での利用が多い。

▼実験2：巡回便 バス停別の乗降者数



▼運行ルート

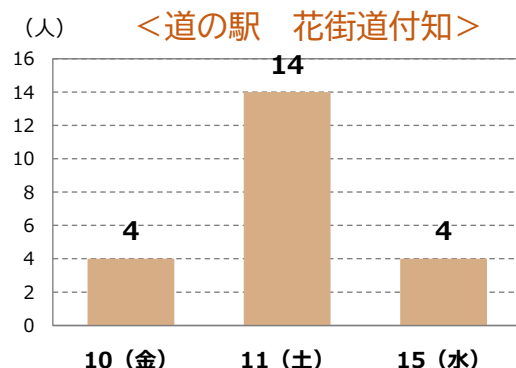
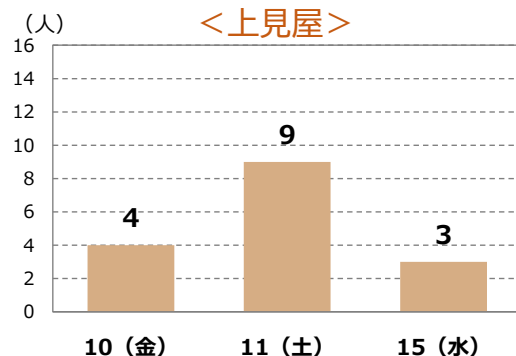
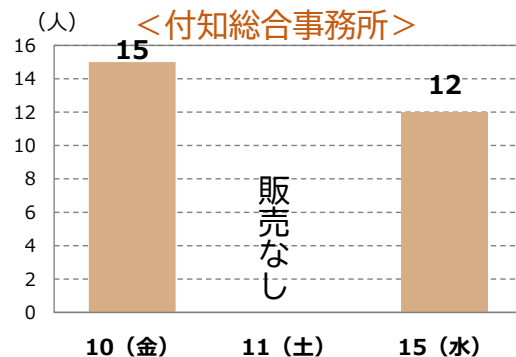


4. 実施結果 実験3：移動販売

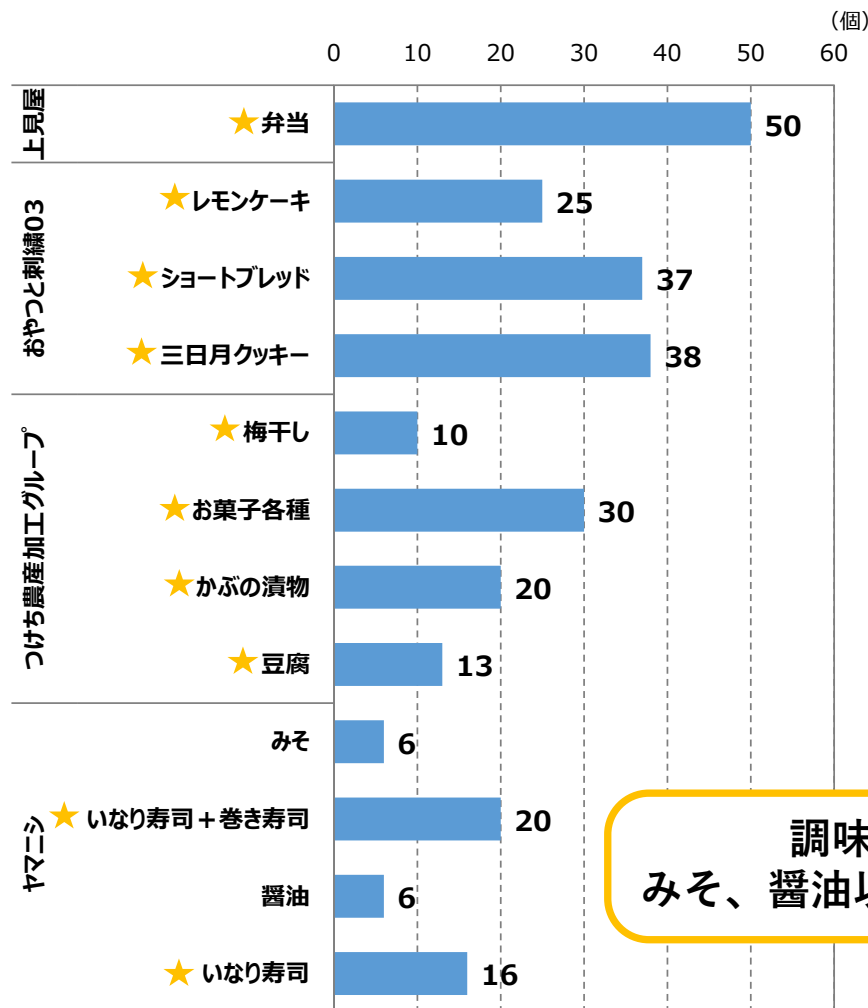
資料6

- ・ 購入者数は、平日は就業者の集中する「付知総合事務所」、休日は「道の駅 花街道付知」が多い。
- ・ 調味料であるみそ、醤油は売れ残ったものの、一定数購入されている。その他の商品は完売。

▼ 箇所別 購入者数



▼ 商品別売上個数



調味料の
みそ、醤油以外は完売！

★ : 完売した商品

5. 検証に向けた調査

資料6

付知 bin
Tsukeychi Bin

- ・ 社会実験の効果や今後の検討の基礎データとして、3つの調査を実施。調査・分析を進めている。

■ プローブパーソン調査

調査期間：実験前1週間＋実験後1週間
対象：実験車両を1度以上利用
いただける方 約50名

▼プローブパーソン調査イメージ



■ 利用者アンケート調査

- ・ 実験参加者に手渡し配布。

<アンケート内容>

- ・ 利用回数
- ・ 利用の目的
- ・ 利用のしやすさ、感想 等

■ 住民アンケート調査

- ・ 付知町地区 全世帯に郵送配布。

<アンケート内容>

- ・ 世帯での自動車保有、通勤・通学費用
- ・ 実験の認知、利用の有無
- ・ 想定される自動運転車両の利用シーン
- ・ 利用への支払い意思額
- ・ 自動運転を活用したサービス導入時の生活の変化（車両・免許保有） 等

▼住民アンケート調査票

中津川市 社会実験に関する住民アンケート調査票

世帯（ご自身及び同居している方）についてお聞きします。

【問1】住所（地区を記載してください） 【問2】世帯人数について、お教えてください。

【問3】世帯の方全員について、お答えください。（※7名以上の場合は、高齢の方から記載ください）

世帯構成人数	性別	年齢	職業	自動車の運転免許	通勤・通学先	通勤・通学にかかる交通費（月間）
世帯主	1.男性 2.女性	1.男性 2.女性	1.専業主婦 2.専業主夫 3.その他	1.持っている 2.持っていない 3.持っていたが返却した	1.付知町内 2.付知町内 3.その他	約 〇〇〇 万円
2人目	1.男性 2.女性	1.男性 2.女性	1.専業主婦 2.専業主夫 3.その他	1.持っている 2.持っていない 3.持っていたが返却した	1.付知町内 2.付知町内 3.その他	約 〇〇〇 万円
3人目	1.男性 2.女性	1.男性 2.女性	1.専業主婦 2.専業主夫 3.その他	1.持っている 2.持っていない 3.持っていたが返却した	1.付知町内 2.付知町内 3.その他	約 〇〇〇 万円
4人目	1.男性 2.女性	1.男性 2.女性	1.専業主婦 2.専業主夫 3.その他	1.持っている 2.持っていない 3.持っていたが返却した	1.付知町内 2.付知町内 3.その他	約 〇〇〇 万円
5人目	1.男性 2.女性	1.男性 2.女性	1.専業主婦 2.専業主夫 3.その他	1.持っている 2.持っていない 3.持っていたが返却した	1.付知町内 2.付知町内 3.その他	約 〇〇〇 万円
6人目	1.男性 2.女性	1.男性 2.女性	1.専業主婦 2.専業主夫 3.その他	1.持っている 2.持っていない 3.持っていたが返却した	1.付知町内 2.付知町内 3.その他	約 〇〇〇 万円

【問4】世帯で保有している自動車の台数について、お答えください。

自動車	車種	購入金額	購入時期	今後の予定
1台目	1.乗用車 2.軽乗用車 3.貨物車	約 〇〇〇 万円	約 〇〇 年 〇 月	1.買い替え予定あり → 約 〇〇 年後 2.売却予定あり → 約 〇〇 年後 3.売却予定なし
2台目	1.乗用車 2.軽乗用車 3.貨物車	約 〇〇〇 万円	約 〇〇 年 〇 月	1.買い替え予定あり → 約 〇〇 年後 2.売却予定あり → 約 〇〇 年後 3.売却予定なし
3台目	1.乗用車 2.軽乗用車 3.貨物車	約 〇〇〇 万円	約 〇〇 年 〇 月	1.買い替え予定あり → 約 〇〇 年後 2.売却予定あり → 約 〇〇 年後 3.売却予定なし

【問5】保有している自動車について、お答えください。（※3名以上の場合は、利用頻度が低いものを記載してください）

自動車	車種	購入金額	購入時期	今後の予定
1台目	1.乗用車 2.軽乗用車 3.貨物車	約 〇〇〇 万円	約 〇〇 年 〇 月	1.買い替え予定あり → 約 〇〇 年後 2.売却予定あり → 約 〇〇 年後 3.売却予定なし
2台目	1.乗用車 2.軽乗用車 3.貨物車	約 〇〇〇 万円	約 〇〇 年 〇 月	1.買い替え予定あり → 約 〇〇 年後 2.売却予定あり → 約 〇〇 年後 3.売却予定なし
3台目	1.乗用車 2.軽乗用車 3.貨物車	約 〇〇〇 万円	約 〇〇 年 〇 月	1.買い替え予定あり → 約 〇〇 年後 2.売却予定あり → 約 〇〇 年後 3.売却予定なし

【問6】社会実験の実施についてご存じでしたか？

1.知っている、実験内容も概ねわかっている 2.知っているが、実験内容までは分からない
3.知らなかった

【問7】実験に参加されましたか？

1.参加した 2.参加していない

【問8】「参加していない」と答えた方にお聞きします。参加しなかった理由は何ですか？（該当する全てに○）

1.実験期間・期間がなかった 2.利用の仕方が分からなかった
3.時間がなかった、合わなかった 4.目的と実験車両の運行区域が違った
5.社会実験に関心なかった 6.その他

【問9】付知町地区に必要なと思うサービスは、実験1～3のどれですか？

1.タクシーのようにどこでも人・物を運ぶ「実験1：地区内 人・物どこでも輸送」
2.バスのように付知町内をぐるぐる巡回する「実験2：巡回便」
3.先へ後を近くまで送る「実験3：移動販売」

【問10】自動運転技術の導入を見据えた「まちづくり」にご興味や関心はありますか？

1.非常に興味がある 2.少し興味がある 3.興味がない

【問11】自動運転技術の導入を見据えた「まちづくり」で期待することはありますか？（該当する全てに○）

1.外出機会の増加 2.外出エリアの拡大 3.自由な時間の増加
4.地元産品の購入機会の増加 5.日常生活の利便性増加 6.観光客の地区内への来訪増加
7.その他

～裏面に続きます～

地元木工所さんと協働したバス停の製作

早川泰輔事務所

バスルートの検討
バス停設置箇所の検討

実験内容と
コンセプトの共有

デザインの検討
設置方法の検討
使用する木材の選定

木材の加工

バス停名のペイント

バス停の設置

紹介パネルの製作と
取り付け

東京大学
交通・都市・
国土学研究室

バス停のコンセプト

「木のまち」付知らしさを表現する

：早川泰輔事務所の倉庫で保管されていた古材（ヒノキ・クリ・カシ）を再利用。木馬の材料となるカシを使うなど、付知ならではのバス停を目指した。

まちの景観に馴染むデザインとする

：一つ一つの木材の個性を生かすため、表面を磨くなどの加工はせず、まるで原木が立っているようなデザインを意識した。

バス停を通してその場所の歴史に触れてもらう

：地域の皆さんへの聞き取り調査を行い、それぞれの場所の歴史を紹介するパネルや古写真パネル、地図パネルを製作し、バス停に取り付けた。



